



TOKYO2020 特集

『ナバさんがオリンピックに出場』

今年の6月20日、芝の東京プリンスホテルで開かれた高橋会長の叙勲祝賀会のときに、日本協会国際部の白井巧さんがわざわざ私の席に来てくれて嬉しい知らせを伝えてくれました。ナバさんがTOKYO2020オリンピックの選手に決まったということです。写真の選手がナバさん（Abdul Razzaq Fathimath Nabaaha）、5年前のJEF NEWS 103号で紹介したモルディブの選手です。

スポーツの価値とオリンピック精神の普及への国際貢献事業として、日本が官民連携で取り組んでいるSPORT FOR TOMORROW事業があります。ナバさんはその一環の「モルディブバドミントン協会女子ジュニア選手育成支援事業」（2016年11月21日～12月19日）の対象選手として、双子の姉ナビさん（Abdul Razzaq Aminath Nabeeha）とモルディブバドミントン協会会長ムーサさん（Moosa Nashid）とともに来日しました。高校2年生、17歳の時です。埼玉県立越谷南高等学校に短期留学して、ホームステイでホストファミリーと日本の生活を経験しました。バドミントンは越谷南高校バドミントン部を中心にして、首都圏6ヶ所で約一ヶ月間バドミントン強化を実施しました。この事業を主管したのが日本教職員バドミントン連盟です。

IOCには「オリンピック競技大会出場に関する助成」のためのプログラムがあります。競技力が高くない途上国に対して、若手育成のためのチャンスを支える仕組みです。モルディブバドミントン協会からモルディブオリンピック委員会に書面で申請し、その後、IOC、BWF、BAの協議で決定します。選出ポイントは顕著な大会結果があるかどうか。ナバさんは2019年に多くの大会に出場し、モーリシャスで行われたIndian Ocean Island Gamesのシングルスで優勝するなど実績を積んでいきました。その結果、とうとうTOKYO2020オリンピック出場を達成したのです。2021年6月3日に正式に通知があったそうです。

私たちが受け入れた選手がオリンピックに出たことは、本連盟としても大変喜ばしいことです。ナバさんの今後の活躍とモルディブバドミントン協会の発展を願ってやみません。



オリンピック会場にて



Indian Ocean Island Games



ナバ（左）・ナビ（右）姉妹 左端がムーサさん



交流会でもらった缶バッジ

〈文責：日本教職員バドミントン連盟 稲石 一雄〉

【2016年のナビさん、ナバさんの活動については、JEF NEWS 103号を参照してください。】



TOKYO2020 特集

オリンピックボランティア・パラリンピック線審を終えて

日本教職員バドミントン連盟理事 東京都 藤井 弘行



開催が1年延期された2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会でしたが、オリンピックではボランティアとして参加し、モップ係を担当させていただいた。パラリンピックでは競技役員として参加し、線審を担当させていただいた。直前まで大会開催が心配される中、いろいろな思いが錯綜しながら大会当日となったが、私にできることを一つずつ行うことを心掛けた。

大切にされたことは、健康管理であった。ボランティアとして線審として、毎日当たり前のように業務に臨むことができるように自らの生活をコントロールしなければならぬと感じ、健康管理の緊張感は、大変大きなものであった。結果として、私だけでなく、バドミントン競技に関わった方々が毎日健康に大会に臨めたことは凄いことだと心から感じた。

心に残ったことは、「人間力なくして競技力の向上無し」であった。モップ係を行うときは、主審とコンタクトをし、素早く主審や選手のニーズを受け止め対応するという意識をした。目立つ業務ではないが、ある時、アクセルセンから日本語で「ありがとう！」と声を掛けられた。胸がいっぱいになった。チャンピオンになった姿を目の前で見て、ひととき感動した。また、選手のコーチの声をよく耳にした。他国のコーチがよく口にしていた言葉が「relax」であった。自らのパフォーマンスを最大限発揮するためにまず必要なのは「relax」であり、そして選手は、自分にできることを淡々とやり続けた。そして、インターバル中には、具体的で短いアドバイスが送られ、最後は次も頑張ろうという「Let's go!」。大切なコーチング技術を学ぶことができた。「人間力なくして競技力の向上無し」というのは日本選手団のスローガンだったが、大きな舞台は人間力を高める舞台なのだろう。

あらためて感じたことは、バドミントンとは「様々な打球を打ち相手のミスを引き出す」スポーツであるということであった。パラリンピックにおいてバドミントン競技は、6カテゴリーにおいて試合が展開されたわけだが、それぞれのカテゴリーにおいてコートが大きさが違っていた。どのカテゴリーの試合をするかは、直前までわからないが、各カテゴリーの担当ラインを確認することは大変緊張した。審判技術の未熟さを痛感した。そんな中、各試合の張りつめた1球1球のラリーに注視しながら、バドミントンとは「様々な打球を打ち相手のミスを引き出す」スポーツであり、日頃私が関わっている高校生や、オリンピックでもパラリンピックのどのカテゴリーでも、みな同じだということあらためて感じた。

最後に、夏休みの間、延べ19日間職場を離れることに協力してもらった職場の仲間や、私の活動を支えてくれた家族に心から感謝している。そして、これからの人生において「人間力なくして指導力の向上無し」をスローガンに努力し続けること、頑張っているすべてのバドミントンプレイヤーの役に立てるよう力を尽くすことを決意し終わります。

ありがとうございました。



テレビに映った藤井さん（オリンピック）



派遣審判常連の梅蔭さんと（神奈川県）（パラリンピック）



TOKYO2020 特集

東京2020オリンピック大会に参加して ～NTO（国内技術役員）として～

東京都教職員バドミントン連盟 杉並区立松ノ木中学校 横田 和長



東京2020オリンピック大会への審判としての参加は、私にとっても目標の一つでした。その願いがかなったこと、これは私の経験や努力といったものよりも、これまで出会った関係の皆様のおかげであることは間違いありません。この場をお借りして、あらためて感謝いたします。約2週間弱の大会期間でしたが、4年に1度の大会、アスリートの目標の舞台に関わらせていただいたことは私にとっても大変貴重な体験となりました。

コロナ禍で、オリンピック大会開催についての意見が割れる中で参加してよいものか私自身も悩みましたが、競技しているアスリートを目の当たりにして、私の力が少しでも役に立ったのであれば、それはそれで良かったのだらうと感じています。

バドミントン競技の会場は東京都調布市にある武蔵野の森総合スポーツプラザです。ジャパンオープンなど国際大会の会場でこれまでも審判として参加させていただき、会場の雰囲気には慣れているつもりでしたが、オリンピックともなるとそこはこれまでの雰囲気とは全く別でした。会場の装飾、コートマットやネットに至るまでオリンピック用に新調されていました。

コロナ禍で行われた大会は、いわゆる『バブル方式』で感染予防対策がとられていました。ホテルから出ることはできず、毎日PCR検査を受けました。また毎日の検温と体調をアプリを使って管理します。審判業務がない日もありましたが、やはりホテルの外には出られません。そうした中ではありましたが、やはり感染拡大を封じ込められたのはよかったと思います。

審判員（線審）は海外から見えた方も含めて85名。5～6人が1グループとなり、2グループで約10日間の審判業務をこなしていきました。長期間同じグループで審判業務を行うと、本当に審判員も一つのチームになれたような気がします。今回お会いした方々とまたいずれどこかの大会でお会いすることも今後の楽しみの一つです。

私は全部で27試合の審判業務をさせていただきました。アスリートたちがどれだけの想いでこのオリンピックに臨んでいるのか、その覚悟を試合が終わるたびにみることができました。特に予選が終わり、決勝トーナメントに進むと、それは強く感じるようになりました。先ほども申し上げましたが、これまでも国際大会の審判業務をさせていただきましたが、特に負けてしまった選手、コーチの姿はこれまで費やしてきた全てのものがどんなものであったか、その重さを感じさせるような姿に私は見えました。世界最高の舞台で必死に競技するアスリートたちは本当に素晴らしく、美しく、崇高な姿でした。

私は教員になって、初任校のバドミントン部の顧問が異動で不在となり、バドミントン部の顧問になったのがきっかけでバドミントンをやり始めました。最初は競技としての楽しさを子どもたちにも教えたい、自分ももっとバドミントンのことを知りたいと思い審判資格も取りました。よく指導の中、あるいは大会等で敗者校審判という言葉聞きます。“審判＝負けた人がやること”と思われがちですが、私は疑問を感じています。もちろん、価値を目指していくことは否定しませんが、審判がいなければ大会が成立しないのも事実です。子どもたちには審判業務にもっと関心をもってもらいたいし、審判で国際大会やオリンピックを目指す人材を育てることも大切であると思います。世界の舞台で日本人の選手のみならず、審判員でも活躍する日を楽しみにしております。私は今後もそのようなきっかけをつくる指導者であるよう心掛けていきたいと考えています。